

令和2年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	一般財団法人北上市文化創造	
施 設 名	北上市文化交流センターさくらホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	9,570	(千円)
	公 演 事 業	759 (千円)
	人 材 養 成 事 業	394 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	8,417 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	※クラシック音楽普及のためのコンサート事業：きたかみサロン音楽会シリーズ	①12/20(日) ②翌1/23(土)③2/23(火)	出演：①山本奈央(オカリナ) 志野文音(ギター) ②佐藤采香(ユーフォニアム) 清水初海(ピアノ) ③野尻小矢佳(マリンバ)	目標値	405
		小ホール		実績値	124
2	※ピアノ音楽活性化事業	中止	出演：①山本千尋(ジャズピアニスト) ②ルービンシュタイン国際ピアノコンクール入賞者	目標値	900
		①中ホール ②大ホール		実績値	0

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

- ・ 1の②及び③と2は開催を中止した。

## (2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	※いわての演奏家連携育成事業「いわての演奏家とつくる音楽会」プログラムづくりとアウトリーチ事業	10/15～翌2/19(計5日)	出演：木戸口夏海(クラリネット)、吉田菜穂子(ピアノ) 講師：加藤直明(トロンボーン) / 小堀陽平(演劇作家)	目標値	530
		小ホール、北上市及び奥州市内各所		実績値	89

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

- ・12月開催予定の地域の演奏家によるコンサート(出演：木戸口夏海)は、開催を中止した。
- ・地域の演奏家によるアウトリーチ10回実施予定が、5回中止、5回実施した。
- ・アウトリーチ・ラボについて3回実施予定のところ、講師を変更して2回実施した。

### (3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	※子どもの未来創造事業： 2020 国際子どもと舞台芸術・未来フェスティバル IN 北上	10/27(火)、28(水)	令和2年度北上市青少年芸術鑑賞公演 わらび座「わくわく和ライブ」	目標値	2,100
		大ホール		実績値	1,798
2	※みんな ART おたがいさま ライブ事業	①11/14(土)	①金管五重奏 Buzz Five～ぐるりぐるり360° どこでもどうぞコンサート ②目で見える落語～オチがわかる！	目標値	160
		②2020 年度中 小ホール		実績値	80
3	※アウトリーチ事業	9/8(火)～12/19(土)	出演者：山本奈央(オカリナ)志野文音(ギター)／加藤直明(トロンボーン)城綾乃(ピアノ)／金管五重奏 BuzzFive	目標値	260
		各学校音楽室等		実績値	89
4	※古典芸能興味関心育て 事業：歌舞伎公演＋レクチャー＋関連取組み	中止	①「はじめてかぶき塾」(講師：葛西聖司) ②「松竹大歌舞伎2020」(出演：尾上松也、中村梅枝他)	目標値	1,730
		①小ホール②大ホール		実績値	0
5	※子どもの舞台芸術体験 事業キックスタート	通年(合唱・ダンス)、 7/29(水)～31(金)(演劇)	「うたクラス」(講師：菅家奈津子)「ダンスクラス」(講師：山田うん)「演劇」(講師：小堀陽平)	目標値	610
		小ホール他		実績値	303
6	※オリジナルダンス創作 による地域行事「盆踊り」 活性化協働事業	中止	出演：コンドルズ、ブラックボトムプラスバンド、しまちーず(地元バンド)、飛勢太鼓、小鳥崎さんさ踊り保存会(地元芸能団体)	目標値	1,730
		さくらホール他		実績値	0
7	※オペラレクチャー事業	中止	出演：晴雅彦(バリトン)	目標値	210
		小ホール		実績値	0
8	さくらホールパフォーマンス しょうげき！事業：ノン・ バーバル ライブペインティ ングパフォーマンス「三本の 手のスケルツォ」	12/28(月)～29(火)	出演：テアトロ・インプロヴィーゾ(ダ リオ・モレッティ、並河咲耶)	目標値	226
		中ホール		実績値	150

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

- ・ 1は2020国際子どもと舞台芸術・未来フェスティバル全体の開催延期により、海外招聘作品のカンパニー来日が困難なため、演目を変更した。
- ・ 2の②、4、5の上半期、6及び7は開催を中止した。
- ・ 3は、公演事業の「きたかみサロン音楽会」の一部中止に伴い、4回中止、10回実施した。

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

#### ■社会的役割への位置づけ

『文化芸術を通じた心豊かな地域社会の形成に貢献する』ということを目標にさくらホールは運営されている。さらに、設置者である北上市は令和2年度から『北上市文化芸術基本条例』制定に向け動き出し、文化芸術を生かしたまちづくりを推進して行く姿勢を強く打ち出し、令和3年4月1日、岩手県内初となる条例が施行された。

#### ■地域の特性

条文内にもあるように、北上市は、古くから交通の要衝として、人、物、情報が行き交う歴史の中で、進取の気風と多様性に対応した風土が生まれ、特有の文化が創造されて今に至っている。さらに、市民の定義では市内に住む者はもちろんのこと、市内で働くもの、学ぶもの、市内に事業所を置く事業者、まちづくり活動をする団体、市内で文化芸術活動を行うもの、市内で教育、保育に携わる者を市民としている。これらの交流を生み出す拠点としてのさくらホールの存在は大きい。大中小ホールの3つの劇場機能に加えて、21のファクトリー諸室（練習室や会議室）を備えており、赤ちゃんを連れた子育て世代の会合から、老若たちのバンド活動まで網羅し、老若男女問わず交流の中心であるといえよう。

#### ■事業の組み立て

ビジョン1『うるおい』文化芸術活動を通じて人々がうるおう。

ビジョン2『ふれあい』市民の新たなシンボルとして様々な人々が交流する。

ビジョン3『にぎわい』市民から親しまれ人々にぎわう日常活動の場、まちの文化広場。

ビジョン4『あんてい』管理運営の組織体制、経営が安定している。

4本の柱で計画に沿った事業展開を行っているが、ビジョン1から3に関して、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度事業は中止が多く、実施した事業も大幅な修正を余儀なくされ、予定通りに事業が進むことはなかった。しかし、ビジョン4に関しては、組織体制の見直し、ホールの未稼働日をうまく活用し、大ホールスピーカーの更新工事、大中ホールのシートクリーニングが実施できた。最終的な財団の決算もコロナ真ただ中においても、黒字で終えることができた。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

#### ■文化的・社会的意義

市として文化芸術基本条例を制定したことにより、さくらホールは一層『文化芸術を通じた地域社会の形成に貢献する』ための施設として、文化芸術を率先して運営していく組織としての役割を求められる。令和2年度コロナ禍における文化芸術活動の中止、縮小を余儀なくされ、自主事業入場者数、鑑賞者数もそれに伴い減少した。しかしながら、さくらホールを代表するファクトリー諸室稼働率は、コロナ禍においても85%の稼働率をあげ、ホールを中心とした発表会やコンサートが中止になっても、市民の文化芸術活動の中心であり、継続的に活動がなされていたことが伺え、市民生活の一部として機能している。

#### ■経済的意義等

東北新幹線北上駅が存在するとはいえ、首都圏からの交通費は自主事業財源のみでは公演数、出演者数によっては公演の断念にもつながる。助成を受けることで、複数回に渡る指導や出演者による各所へのアウトリーチ事業が成り立つものであり、市内隅々へまで文化芸術活動を届けることを可能にしている。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

■公演事業の目標、指標設定の考え方は次のとおりであり、目標を達成できたといえる。

【クラシック普及、音楽ファンの増加】1公演のみの開催となり、多様なラインナップの提供はできなかったが、アーティストのPCR検査、観客の情報記入、座席の配置、換気等対策をしたうえで公演を提供できた。コンサート鑑賞者の満足度は87.0%(昨年84.7%)と前年度より高水準であった。新型コロナが流行している中で開催自体に好意的な意見が多く書かれ、アンケート回収率も当館平均の40%から大きく上回る61.3%となった。

■人材養成事業の目標、指標設定の考え方は次のとおりであり、目標を達成できたといえる。

【地域の人材(演奏家2名、コーディネーター2名)を養成することにより、継続的に質の良いアウトリーチを実施する。】

・養成対象の演奏家2名の内、1名が新型コロナウイルスによる勤務先等の影響で研修、アウトリーチ実施ができなかった。もう1名の演奏家は5回のアウトリーチを実施。できる限りのコロナウイルス対策を講じ、プログラム内容を工夫することで制約のある中でも鑑賞者に合わせたアウトリーチを創作する貴重な経験となった。アウトリーチ実施先の担当者のプログラム満足度が93.7%(目標85%)であり、継続希望も100%であったことから目標を達成することができた。

・アウトリーチプログラムへの助言等について、地域の演奏家からの地域コーディネーターへの評価が「3:ほぼ目標の成果をあげた」となり、目標を達成した。今年度はアドバイザーがコロナウイルスの感染拡大地域に居住されていることから、招聘を中止した。

【アウトリーチに関する研修や研究を実施することで関係者の交流やネットワークの強化を図る】

アウトリーチ・ラボ3回の予定を2回実施。講師を変更しての実施であり、参加者満足度は達成できなかった。岩手県内の連携館は釜石市民ホール、大船渡市民文化会館との連携を交渉したが、実現できなかった。

■普及啓発事業の目標、指標設定の考え方は次のとおりであり、目標を達成できたといえる。

【社会包摂、ノーマライゼーションの推進】

公演を鑑賞しにくい子育て世代、障がいのある方、高齢者やその他様々な配慮が必要な方々でも、制約なく鑑賞できる公演を実施し、当初目標の80名(うち車椅子(ストレッチャー)での鑑賞1人、乳児7人、幼児8人)に提供できた。アウトリーチ事業で訪問した7校の中学校特別支援学級の生徒1名が、アウトリーチでの出来事を話し家族とともに来場するなど、特別な支援を要する子どもがさくらホールに家族と訪れることのできる、誰もが舞台芸術を楽しむことのできる環境を提供することができた。

【異文化理解】

イタリア人アーティストとの交流では、コロナウイルス感染症の拡大防止対策のため、触れ合いの多いプログラムを中止した。そのため、「ふれあいが楽しかった」目標85%のアンケートの回答が22.5%であり目標値に達しなかったが、ワークショップの雰囲気はとてもよく感じられた。

【自分らしさ(個性)を発揮できる、自己肯定感が高い子どもの育成】

子どもの舞台芸術体験事業では大幅に日程を縮小、変更して実施した。「音楽」と「ダンス」の性質の異なる両ジャンルを体験することで子どもの好奇心を高め、新しいことにチャレンジする意欲を刺激することができた。「自分らしく楽しめた」と回答する子どもが目標85%に対して、90%であった。保護者からも「アーティストによって子どもの個性が引き出された」との回答が93%であり、目標を達成することができた。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### ■令和2年度における新型コロナウイルス感染症対策としての開催可否判断基準

ホール全体の事業ラインナップとしては、4月19日から翌年の2月23日にかけての鑑賞事業を予定し、大小・多種多様な公演ジャンルを準備していた。新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言（①4/7～5/6 ※全都道府県含む②令和3年1/8～2/7～延長3/21）が発令されたエリアからのアーティスト来館は、さくらホールの判断基準として控えていただくこととし、事業の中止、スケジュールや事業内容の見直しを行った。緊急事態宣言中であっても、②の期間の際は、直近1週間の新規患者数（対人口10万人）が15人未満であった場合は、来館可能とする新しい判断基準を設け事業を開催している。

#### ■公演事業

①クラシック音楽普及のためのコンサート事業として、『北上サロン音楽会シリーズ（3回）』、②ピアノ音楽活性化事業（2事業）を予定していた。『北上サロン音楽会シリーズ（3回）』のうち、上記の開催判断基準等により、VOL. 1「山本奈央（オカリナ）、志野文音（クラシック・ギター）の公演開催のみで終了した。VOL. 2・3は、開催予定日が緊急事態宣言と重なり、中止判断基準に該当したため、開催を見送った。②ピアノ音楽活性化事業は、VOL. 1「ファツィオリで聴くジャズ」公演が、緊急事態宣言期間中にチケット発売が重なることや、VOL. 2「第16回ルービンシュタイン国際ピアノコンクール入賞者 日本ガラ・コンサート」は、海外招聘者を含む事業であったため、中止とした。公演事業は当初の計画通りに全く進まなかったといえる。

#### ■人材養成事業

いわての演奏家連携育成事業は4事業を予定していたが、①アウトリーチ回数は市内で6回、近隣の奥州市で4回を予定したが、新型コロナウイルス感染症対策の一環で、極力ミニマムエリアでの開催とし、大幅に事業計画を見直し、市内では1回、奥州市内の小学校で学年別にトータル4回の開催にとどめた。②演奏家の考えを理解し適切なアドバイスを与え、地域とのパイプ役を担うコーディネーター養成のための、今回のアドバイザーの招聘は中止。③地域の演奏家によるコンサートは開催中止。④アウトリーチ・ラボは3回の予定に対し2回開催できた。人材養成事業に関しても大幅な事業計画の修正を余儀なくされた。

#### ■普及啓発事業

①子どもの未来創造事業。当初予定していた海外招聘作品のカンパニーが来日不可となり、開催時期、出演団体を見直し開催。②みんなARTおたがいさまライブ事業（2公演）を予定していた。『金管五重奏 BuzzFive』のみの開催となり、もう1公演の『目で見ると落語』は開催中止。③アウトリーチ事業。『サロン音楽会（VOL.1）』出演者による、アウトリーチ2回実施できたのみで、残り4回は中止。みんなART出演者の7回のアウトリーチは開催、『目で見ると落語』のアウトリーチは中止。④古典芸能興味関心育て事業は中止。⑤子供の舞台芸術体験事業キッズアート。事業期間も1年間に渡る事業期間であったため、大幅な修正を加えて実施。上半期の合唱6回、ダンス6回を中止。合唱は首都圏の講師をオンライン中継や、来館による指導で8回開催し、発表会まで実施。ダンスは7回開催し、発表会まで開催することができた。新型コロナウイルス感染症に最も左右された事業となった。⑥オリジナルダンス創作による地域行事『盆踊り』活性化協働事業は中止。⑦オペラレクチャー事業は中止。⑧さくらホールパフォーマンスしょうげき！事業。開催日程を見直し3館連携事業として実施。全事業見直しと中止に至った。

■事業費が適正で当初の計画通りに進んだか。助成内定額9,570千円に対し、事業の中止や事業内容の大幅見直しがあったことで、途中変更承認申請を経て3,910千円で、令和2年度は計画通りに進むことはなく終了した。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

令和2年度における結論；優れた事業を計画していたが、事業の中止が相次いだため、最大限には発揮できなかった。

#### ■公演事業（中止であったが特記事項として掲載）

①クラシック音楽普及のためのコンサート事業のうち『VOL. 3 野尻小矢佳（マリンバ）』こちらも、新マリンバ（こおろぎ社製）のお披露目会も兼ねたコンサートであったが中止。野尻氏は、こおろぎ社から楽器提供を受けているアーティストであり、マリンバ購入後のアドバイスも頂戴するなどしている。コンサートだけでなく、アウトリーチにも活用し、また新たな楽器の魅力を地域に届けることが可能になる。

②ピアノ音楽活性化事業は、「ファツィオリ社製ピアノ」を使用する事業であるが、市民のピアノ委員が選定し、要望し、東北で唯一の公共ホールに現存するピアノであり、希少性も高く、ホールの貴重な資源である。このピアノを使用し、VOL. 1ではジャズピアニストによる演奏会、VOL. 2ではルービンシュタインピアノコンクール入賞者を招聘してのコンサートを予定していたが中止に至った。ピアノ保守点検先である、ファツィオリジャパン社の協力も得て開催する、ピアノの価値を高める当館の注目公演であったが残念な結果である。

#### ■人材養成

地域の音楽の養成し、活躍の場を提供していくことや、コーディネーターの養成、ホールに足を運びにくい人々へアウトリーチを通じクラシック音楽を提供していくことが目標である。コロナ禍においても活動範囲を限定することでこの事業を開催することができた。アーティストが生まれ育った地域の交流センターでのコンサートも開催でき、ミニマムなスケールでの開催であるが、アーティストの発掘から育成する事業としての役割は大きい。アドバイザーは招聘できなかったが、今後も継続していくことでコーディネーターの育成にもつながる。

#### ■普及啓発（特記すべき事業）

さくらホールパフォーマンスしょうげき！事業。この事業は3館連携事業で、イタリアからの海外招聘作品ということもあり、世界的なコロナウイルス感染症蔓延のさなかであっても、3館と連絡を取り合い、対策を取りながら、開催することができた。年長から小学生までを対象にワークショップも開催できた。貴重な海外舞台芸術作品を通じ、異文化交流のきっかけも実現することができた。すべての予定プログラムの実現には至らなかったが、ホールの特性を生かし、小ホールの特徴を存分に生かした内容で準備したかったが、密対策で中ホールへ変更して開催したことが悔やまれる。

コロナ禍においても、担当者の創意工夫により事業が開催できた。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

### ■公演事業

クラシック音楽普及のためのコンサート事業として、きたかみサロン音楽会シリーズは、継続していくことで定着している。大中ホールではない、さくらホールの特徴ともいえる平土間の小ホールに舞台を設定し、目の前でアーティストが演奏し、お話付きのコンサートを開催している。チケットも安価で購入でき、クラシック音楽普及につながっている。平成20年よりこの事業は続き、26種類の楽器を紹介し、37回の公演を開催している。クラシック音楽鑑賞者の裾野を広げている。

### ■人材養成

コロナ禍における、いわての演奏家連携育成事業ではあったが、もしホールがこの事業を行っていなかった場合、一人の地元アーティストは活動できたであろうかと考える。数少ない音楽家が、辞めるきっかけになってしまった1年になってしまわなかつたらうか。この事業の特徴は地元の演奏家を養成していくことはもちろんだが、コーディネーターをも養成し、ともに地域の演奏家のサポートできる体制を整えていくことが目標でもある。今年のこの時期にあっても、計画が大幅に変更されても、地元の交流施設でコンサートを開催し、共催館を通じ他の市でも小学生向けにアウトリーチを開催できたことは大きかった。岩手の演奏家を育成していくことは、地元への貢献、音楽家本人としても自信につながり、地域の文化芸術の育成につながるものとする。

### ■普及啓発

文化芸術に触れる機会の接点を増やすことが、地域の文化芸術への発展につながると考える。普及啓発のラインナップは、館で実施されるもの、アウトリーチでこちらから行くものと様々なものが準備されている。例えば、今年のコロナ禍の限られた条件下でのアウトリーチ先で、支援学級の生徒さんが、ぜひコンサートに行ってみたいと家族を誘ってきてくれた話があった。親御さんが教えてくれたお話で、小さな話かもしれないが、普段ホールに来たことがない方に演奏を届け、生徒さんが興味を持ち、それを家族に伝え、ホールに行ってみようという一連の流れを創造できた。ホールの普及活動の賜物であったと考える。

子どもの舞台芸術体験事業キッズアートにおいては、小学生がある一定期間、プロの音楽家やプロのダンサーと接する機会を設けることが、この事業の醍醐味でもある。個人でこのような体験をしようとする、資金面もさることながら、先生との対個人での経験となってしまう。それをキッズアートに登録し体験することで、年齢の違う子ども達のつながり、ほかの学校の子とのつながりと、個人では体験できないことをキッズアートでは可能にしている。もちろん、財団の自己予算では成り立たず、補助金を活用して成り立っている事業である。レッスンを卒業していく6年生は卒業公演も行い、後輩たちの目の前で演じるのである。子供たちなりに、自覚し成長していく様子を窺うことができる。今年の事業内容は大幅に縮小となったが、これもまた子どもたちの間での、文化芸術の伝承と考える。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### ■持続性を支える当ホールの特徴と財政面の強み

当ホールは、開館以来、「日常的に文化芸術活動が展開し、にぎわいのある場」を目指し、その実現のため、「ファクトリー」という21室のファクトリー諸室を備え、そこで市民が創作活動を行い、創り出された作品を、ホールで発表し、その感動が新たな創造を生み出すという、「芸術の循環」を目指し、活動を展開してきた。

ホール内の広いフリースペースには常に多くの市民が訪れ、ファクトリーを活用した様々な文化芸術活動が常に行われており、その稼働率はおよそ91%と高く、利用料金全体の4割がファクトリーからの収入となっており、平均すると毎年およそ7千万円の安定的な利用料金収益の確保につながっている。※コロナ禍は除く

また、利用料金制を導入し、その使途については、市との協定において、自主事業の実施に限定し、自主事業の事業費とそれに係る人件費に充てることとなっていること、また利用料金の減免措置がないことも、安定した独自の事業運営の継続に役立っている。令和2年度収支決算においても、新型コロナウイルス感染拡大防止によるイベントの中止や自粛が相次ぎ、利用料金は対前年を下回る結果となったが、当期経常増減額は黒字で終わることができた。これは大規模イベントの中止が相次いでも、一番の特徴であるファクトリー諸室の利用が続いているということである。コロナ禍においても、少人数の活動は続いて利用料金収入を得られ、事業への再投資が可能となっていることが強みである。

#### ■持続性を支える組織の特徴

当ホールにおける自主事業推進体制は、アートマネジメントを担当する財団の一般職員5名、令和3年1月より舞台技術課を新設し、舞台、音響及び照明を担当する4名の一般職員（令和3年度1名増員）と常駐の委託職員5名で対応している。特に、舞台技術職員の常駐、強化は、市民の文化芸術活動へのきめ細かな支援や、アーティストとのスタッフワークに幅広く対応し、当ホールの特徴を伴っている。舞台技術課職員と常駐委託職員の業務に対する意識を統一するよう心掛け、様々な舞台での出来事も共有できるよう、会議も開催し、舞台技術課職員のみならず、ホール職員への発信も行っている。また、毎月開催している全員が参加しての全体会議や役員と幹部職員が組織課題を共有する幹部会議を月に2回開催するなど、職員間の情報共有を密にするとともに、業務に関わる研修はもちろんのこと、全体会議後のOJTや、自己啓発研修に対する助成を行う等、人材育成には特に力を入れている。設置者である北上市担当部署との会議も毎月開催することで、問題点の確認や情報交換を開館以来続けている。特に、舞台施設面での修繕協議を行うことで、舞台業務に支障が起きないように共有している。

#### ■持続性を支える市民との協働

当市を拠点に活動するアートNPO法人と協働でフロントサービス、託児サービス（コロナ禍は未実施）、さくらホール発行の情報誌発送、アンケート集計及びチラシの折り込み（こちらも未実施）等を実施している。業務のための研修等も協働で行いながら、ホール運営に参加する市民を増やし、活動を通じ、社会参加に関わることによるシビックプライドの醸成にもつながっている。

#### ■持続性を支える設備投資

コロナ禍においても大ホールスピーカーシステムの入替（ラインアレイシステムへ更新）、チケット予約システムのバージョンアップ（非接触型システムへの更新）、ホームページの見直しを行うなど、そちらも時代の変化に対応できるようにしている。